

“理学療法士”の成長の経緯

知識・技術・態度の源泉から現在に至る道筋

理学療法原論

そして、私たちは、これからどうすべきか？

その1（1章　2章）　　その2（3章）



問う！

日本の理学療法の水準はどの程度か？

- PTから見た場合
- PT以外の医療職からみた場合
- 患者あるいは障害者からみた場合
- 医療・リハビリテーションを直接経験しない一般の人から場合
- 大学生から見た場合

なぜ?
そのような
状態にある
のだろう
か?

問う！

日本の理学療法の水準はどの程度か？

- PTから見た場合
- PT以外の医療職からみた場合
- 患者あるいは障害者からみた場合
- 医療・リハビリテーションを直接経験しない一般の人から場合
- 大学生から見た場合

なぜ?
そのような
状態にある
のだろう
か？

さらに

臨床能力レベル（技術者としてService providerとして）

研究レベル

職業魅力レベル（外形）

職業魅力レベル（経済面）

社会的認知度レベル

知識・技術・
態度は
どのように培
われてきた
か？

イギリス

米国

日本

この問い合わせへの答えの一つの資料↓

- http://www.japanpt.or.jp/upload/japanpt/obj/files/genron_210203.pdf

注目すべきは教育の場が 大学に移るということ

- 技術や知識の伝承は 養成学校で可能
- だが、新しい知識や技術を身に着けるには、そもそもそれを追求し、研究しなければ教えることができない。
- 研究の場と努力があって、その専門領域のサービスの水準は向上する。

- ・これから日本の理学療法士に求められることは何だろうか？
- ・あなたが、自分自身できることから挙げて考えてみよう。